

11 章 34-36 節 「『だれが、主の心を知っているのですか、だれが、この方の助言者になったのですか。また、だれがまずこの方に与え、この方からの報いを受けるのですか』すなわち、すべてのものがこの方から発し、この方によって成り、すべてがこの方に至るからです。どうかこの方に、栄光がとこしえにありますように、アーメン」

12 章 1,2 節 「ですから、私はあなたがたに勧めます、兄弟たちよ、神のあわれみを通してですが。あなたがたのからだを献げなさい、神に喜ばれる聖なる生きたささげ物(いけにえ)としてです。それこそがあなたがたにとって理にかなった礼拝です。この時代(世界)に同調してはなりません(この時代の枠(型)にはめられてはなりません)。むしろ、心^(心)を新たにすることで自分を変えていただきなさい【Do not be conformed to this world, but be transformed by the renewal of your mind】(ESV, NRS)。そうすれば、あなたがたは神のみこころが何かを見分けるようになります、すなわち、何が良いことで、(神に)喜ばれ、完全であるかに関してです」

12 章 3-5 節 「それは、私に与えられた恵みをとおしてあなたがた一人ひとりに言うからです。思い上がってはいけません、思うべき限度を超えて。むしろ慎み深く考えなさい、神が各自に与えてくださった信仰の量りに応じることによって。それは、私たちは一つのからだに多くの器官を持っていますが、すべての器官が同じ働きを持つことがないのと同じように、そのように大勢いる私たちがキリストにあって一つのからだであり、一人ひとり互いに器官だからです。」

12 章 6-8 節 「そして私たちは、与えられた恵みに従って異なる賜物を持っているので、もしそれが預言であれば信仰に依じて、奉仕であれば奉仕において、教えることであれば教えることにおいて、勧め(励まし)をするのであれば勧め(励まし)において、分け与えるのであれば惜しむことなく、指導するのであれば熱心さの中で、慈善を行うのであれば喜びにおいて(行いなさい)」

12 章 9-13 節 「愛は偽り(偽善)がないものです。悪を憎み、善に結びつき(親しみ)、兄弟愛において互いに慈しみ、互いへの尊敬において競争し合い、熱心さに怠けることなく、霊に燃え、主に仕え、望みにおいて喜び、苦難に耐え、祈りに専念し、聖徒たちの必要に参加し合い(コイノネオー)、旅人のもてなしに努めながら」

<引用聖句>

詩篇 40 篇 6-8 節 「いけにえも供え物も あなたはお喜びになりません。私の両耳を あなたは開いてくださいました。全焼のささげ物も罪のきよめのささげ物も あなたはお求めになりませんでした。そのとき 申し上げました。『今 私はここに来

ております。巻き物の書に 私のことが書いてあります。あなたのみこころを行うことを私は喜びとします。わが神よ。あなたのみ教えは 私の腹の中にあります。』」

(申命記 6:4) 「聞け(シエマー)。イスラエルよ。主(ヤハウェ)は私たちの神。主(ヤハウェ)は唯一である。あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主(ヤハウェ)を愛しなさい」

(I コリント 8:5, 6) 「たとえ、神々と呼ばれるものが天にも地にもあったとしても、私たちに父なる唯一の神がおられるだけで、この神からすべてのものは発し、この神に私たちは至るからです。また唯一の主なるキリストがおられるだけで、この方^(主)にあってすべてのものは存在し、この主によって私たちが存在するからです」

(ローマ 8:13) 「もし、肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬことになっているからです。しかし、もし御霊によってからだの行いを殺すならば、あなたがたは生きています」

(マタイ 22:36-40) イエスは「律法の中でどの戒めが一番重要ですか」と問われ、『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性(力)を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』これが重要な第一の戒めです。『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それと同じように重要ですよ」と言われました

(ローマ 11:20) 「彼ら(ユダヤ人)は不信のゆえに折られたが、あなたがた(異邦人信者)は信仰により立っています。高ぶって考えてはいけません。かえって恐れなさい」

(ローマ 11:25) 「私はあなたがたに知らないでいて欲しくはありません、兄弟たちよ、この奥義に関して。それは、あなたがたが自分を知恵ある者としないためです。それ(奥義の内容)は、イスラエルの一部の頑なさが生まれたのは異邦人の満ちる時が来るまでであること、またそれによって、すべてのイスラエルが救われることです」

(ローマ 10:9) 「もしあなたの口においてイエスを主と告白し、あなたの心において神はこの方を死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われることとなります」

(I コリント 12:12,13) 「ちょうど、からだが一つでも、多くの部分(器官)があり、からだの部分(器官)が多くても、一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。私たちはみな、ユダヤ人もギリシア人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によってバプテスマを受けて、一つのからだとなりました。そして、みな一つの御霊を飲んだのです」

(I コリント 12:20-22) 「実際、部分(器官)は多くあり、からだは一つなのです。目が手に向かって『あなたは知らない』と言うことはできないし、頭が足に向かって『あなたがたは知らない』と言うこともできません。それどころか、からだの中でほかよりも弱く見える部分(器官)が、かえってなくてはならないのです」